

芸術工学部画像設計学科(2019年度以前入学者)

ディプロマ・ポリシー (学位授与方針) 1.

基礎知識と理論の理解力

- (1) 視覚に関わる事象を幅広い視野で考えることができる。
- (2) 基礎的な視覚表現ができる。
- (3) 視覚情報の基本的な数理処理ができる。
- (4) 視覚に関わる生理・心理を理解する。 2.

専門知識の活用と応用力

- (1) 視覚情報を構成する要素あるいはその全体について分析と評価をすることができる。
- (2) 視覚情報によるコミュニケーションの最適手法を選択することができる。
- (3) 視覚情報の獲得から処理・表示・伝送についてコンピュータを基盤とした方法と技術を習得する。
- (4) 視覚情報を適切に加工することができる。

3. 総合的設計力

- (1) ビジュアルコミュニケーションの目的、条件、機能、使途等を考慮しながら、最適設計をおこなうことができる。
- (2) 視覚情報の社会的応用について実践できる。
- (3) 視覚学、視覚芸術学、画像工学を総合化できる。
- (4) 視覚情報をコミュニケーションの手段として適切に活用できる。 4.

関連知識の習得

- (1) 調査、研究、発表の能力の習得および、実行力、チャレンジ精神を養う。
- (2) 外国語を習得し外国語の文献を講読理解できる。
- (3) 人文、自然科学関係の基礎知識を身につける。

カリキュラムポリシー (教育課程編成方針)

画像設計学科では以下に示す視覚学、視覚芸術学、画像工学の3分野の有機的な編成と体系的・専門的な教育により、視覚情報を総合的に設計する力のある人材を育成します。

- (1) 視覚学における視覚の神経機構や感覚知覚から心理、美学美術史などの基礎理論や基礎科学
- (2) 視覚芸術学のデジタルデザインやサイン計画、広告・宣伝、映像表現、美術表現などの分野
- (3) 画像工学の光電子工学や画像情報解析・処理、画像・映像情報システムなど、近年急速に発展している分野

基礎的な専門の講義を初年度から開始し、次第に演習・実習・実験の科目も取り入れることによって、実践的で総合的な教育課程となるようにプログラムされています。

アドミッションポリシー (入学者受け入れ方針)

- (1) 教育理念 (教育理念・目標、育成する人材像等)

人間にとって価値の高い情報を、視覚的に明快かつ美的に構成し処理、伝達することを可

能にするため、画像・映像などの視覚情報やその媒体などの情報環境における、多様な局面に対する設計や計画を行う画像設計の専門家を養成することを目標とします。そのために、人間の視覚を始めとする感覚特性や視覚情報の数理・物理的特質に関する科学的・工学的な知識と思考能力および視覚情報の主体的な処理能力をあわせ持つ、創造性の豊かな人材を育成します。

(2) 教育プログラム

上の教育理念と目標を達成するため、本学科では以下に示す視覚学、視覚芸術学、画像工学の3分野の有機的な編成と体系的・専門的な教育により、目指す人材を育成します。1)視覚学における視覚の神経機構や感覚知覚から心理、美学美術史などの基礎理論や基礎科学、2)視覚芸術学のデジタルデザインやサイン計画、広告・宣伝、映像表現、美術表現などの分野、3)画像工学の光電子工学や画像情報解析・処理、画像・映像情報システムなど、近年急速に発展している分野。

基礎的な専門の講義を初年度から開始し、次第に演習・実習・実験の科目も取り入れることによって、実践的で総合的な教育課程となるようにプログラムされています。

(3) 求める学生像（求める能力、適性等）

上記のような幅広い分野の体系的・専門的な勉学を進めるために、その基礎となる多様な学問領域にわたる高い学力およびその柔軟な応用能力を持ち、画像・映像を始めとする視覚情報に係わる新しい学問領域や応用領域を開拓していく意欲と可能性を持つ人材を求めます。

(4) 入学者選抜の基本方針（入学要件、選択方式、選抜基準等）

本学科の目指す人材には、人間と技術を結ぶ多様な分野への関心と理解が欠かせません。入学者選抜では、これまでに学んだ多様な基礎的学問分野の学力と応用力を検査します。

- ・前期日程試験については学部共通の方針を参照してください。
- ・総合評価方式(A0 入試)では、基礎的な学力を備えたうえで、創作活動に高い関心を持ち、論理的思考能をもつ個性豊かな学生を歓迎します。そのため個別学力検査を免除し、書類選考、大学入試センター試験および実技などの総合評価方式による選抜を行います。